

會務報告

第 26 卷第 9 號 昭和 15 年 9 月

役員會

第 10 回理事會 (昭. 15. 7. 15.)

出席者: 中村會長, 谷口副會長, 和田理事外 3 名

1. 滿洲土木學會 (未設) と本會事業提携に關する定款及規則の改正に關し定款改正委員會と合同審議をなせり。

第 11 回理事會 (昭. 15. 7. 22.)

出席者: 中村會長, 和田理事外 5 名

議 事

1. 北海道支部長に小野諒兄君當選せられたるに就き之を依囑。
2. 眞野博士長壽祝賀會に關する廣告掲載を承認。
3. 全日本科學技術團體聯合會本會代表委員 3 名は次の諸君を依囑。

和田重辰君, 宮本武之輔君, 三浦義男君

4. 入退會を別記の通り承認。

第 6 回常議員會 (昭. 15. 7. 22.)

出席者: 中村會長, 井關常議員外 10 人

報 告

1. 北海道支部第 11 回役員會議事及見學會の開催。
2. 關西支部通俗講演會の開催。
3. 相模陸軍造兵廠技術課へ土木學會誌寄贈。
4. 水理公式調査委員會委員長, 主査委員, 幹事依囑。
5. 大陸研究に關する談話會の開催。
6. 6 月中の入退會承認。

議 事

1. 全日本科學技術團體聯合會に加盟することとし本會代表委員 3 名の選定は理事會に一任。

總務部記事

文化映畫委員會 (昭. 15. 5. 20.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 5 名, 徳丸君

1. 映畫雪のローラーの編輯及タイトル作成に就き協議。

2. タイトル製作は日本商會へ依頼すること。

文化映畫委員會 (昭. 15. 6. 17.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 5 名, 金森前委員長, 徳丸君

1. 雪のローラーのタイトル及三國峠國道工事映畫撮影に關し協議。

文化映畫委員會 (昭. 15. 7. 12.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 6 名, 徳丸君

1. 映畫雪のローラーにタイトル挿入編輯を了し金森前委員長に廻付。

文化映畫委員會 (昭. 15. 7. 23.)

出席者: 青木委員長, 廣田委員外 5 名, 金森前委員長, 徳丸君

1. 映畫勝鬃橋のタイトル製作を日本商會に依頼すること。

2. 三國峠國道工事の視察並に映畫撮影のため青木委員長, 片平, 下山兩委員來る 25 日出發。

第 2 回定款改正委員會 (昭. 15. 7. 15.)

出席者: 辰馬委員長, 稻葉委員外 7 名, 中村會長, 瀧尾理事

理事會と合同にて前回に引續き滿洲土木學會の定款及規則案 (滿洲國交通部坂田技監提出) に就き検討, 逐條審議の結果, 疑義の點 (省略) に就き照會することとせり。

編輯部記事

第 8 回會誌編輯委員會 (昭. 15. 7. 10.)

出席者: 廣瀬委員長, 外 10 名

1. 第 26 卷第 8 號登載原稿謝禮を決定。
2. 第 26 卷第 10 號登載原稿を次の如く決定。

論說報告: 基礎微分方程式を累級數に展開して解き變断面壓縮材の限界荷重を求むる方法 (會, 横田周平), 固定道床に於ける軌條支承體の彈性補給に就て (會, 庄子吉光), トラスの安定不安定の判別に就て (會, 工博 福田武雄), 拋角撈度法による構造物の安定論 (其の一) (會, 樋浦大三)

抄 録: 原稿到着遲延のため審議未了なるも委員の審議終了次第登載すること。

3. 彙報, 抄録を至急各委員より募集すること。

調査部記事

水理公式調査委員會主査會 (昭. 15. 7. 26.)

出席者: 鈴木委員長, 富永主査外 3 名, 安藝, 本間兩幹事

協議事項

1. 各部の委員詮衡次の諸君を選定せり。

第 1 部 阿部一郎君, 伊藤 剛君, 福田秀夫君, 渡部彌作君

第 2 部 市浦 繁君, 鶴岡孝造君, 松岡又二君, 横田周平君

第 3 部 杉戸 清君, 鷹田正人君, 米屋秀三君

第 4 部 内林達一君, 黒田靜夫君, 佐藤清一君 (囑託), 松尾春雄君

2. 各部幹事に次の諸君を依頼。

第1部 福田秀夫君 第2部 横田周平君
第3部 米屋秀三君 第4部 佐藤清一君

第1 回水理公式調査委員会 (昭. 15. 7. 31.)

出席者: 鈴木委員長, 富永委員外 15 名, 安藝, 本間兩幹事

本委員会の目的及使命其他に關し協議を行ひ次の事項を決定せり。

1. 各部の分擔を定むる便宜上部門の名稱を次の如く變更。

第1部 河川 第2部 發電水力
第3部 上下水道 第4部 港灣

2. 各部擔當の調査公式を次の如く定む。

第1部 流出量, 平均流速公式, 背水曲線
第2部 平均流速公式, 堰の溢流, 水門の流出, 水衝作用, きーじんぐ

第3部 平均流速公式, 損失水頭, 地下水, 流出量

第4部 波

3. 公式原案は各部に於て8月末日までに作成し幹事に報告すること。

4. 第3部委員米屋秀三君を第2部委員とし, 第3部追加委員は主査に於て選定すること。

第1 回大陸研究談話會 (昭. 15. 7. 17.)

會場: 丸之内會館

出席者: 八田嘉明君, 黒田武定君, 鈴木雅次君, 宮本武之輔君, 吉田直君(代り松本伊之吉君)中村會長, 谷口副會長, 和田, 廣瀬, 稻葉(權), 瀧尾各理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 志村, 鹽谷兩囑託
中村會長より本談話會開催の主旨に就て挨拶あり, 次で八田嘉明君其他諸君の意見交換ありたり。

關西支部記事

第13 回通俗講演會 (昭. 15. 7. 12.)

會場: 朝日會館

講演: 樫原の整地計畫の話 山岡順三君
猪名川改修計畫に就て 小野龍一君
映畫: 植物の神祕 1 卷, 鐵壁の都市 1 卷, 土の開拓 2 卷

聽講者: 約 600 名

北海道支部記事

支部大會 (昭. 15. 7. 13~14.)

第1日: 1. 昭和14年度事業報告及決算報告
2. 支部長選舉 當選 小野諒兄君
3. 講演 本道の開發と土木事業
支部長 神保金衛君

4. 懇親會 出席者 32 名

第2日: 見學會 A 王子製紙江別工場 B 大日本電力江別火力發電所 參加者 15 名

朝鮮支部記事

土木學會朝鮮支部發會式

昨年9月設立された朝鮮支部發會式は5月25日京城府太平通一丁目返信事業會館講堂に於て舉行せられた。

午前9時受付開始, 何分地域廣く略本洲に比敵する事として, 數百料をも遠しとせず, 參會された會員も相當數に上つた。出席者總數は150人に達し, 學會本部よりは谷口, 吉田兩副會長, 和田總務部長, 中村書記長來鮮され, 極めて盛大且有意義に本支部誕生を祝ふ事が出來た。

(A) 發會式 午前10時開會

會場正面には大日章旗を飾り, 裝飾は簡素なれども時局下緊張の氣満堂に漲り, 式辭に祝辭に盡く大陸前進基地朝鮮の重要性を強調せられ, 會員一同一致協力, 土木報國を固く誓つた。

朝鮮支部發會式場



式次第

(1) 開會の辭, (2) 宮城遙拜, (3) 默禱, (4) 國歌齊唱, (5) 式辭(新田支部長), (6) 會務報告(山岡幹事長), (7) 祝辭 谷口副會長, 政務總監(大竹内務局長代讀), 京城府尹

(B) 記念撮影(寫眞參照)

(C) 午餐會 府民館中講堂に於て京城府尹招待

(D) 講演會 自午後1時至午後4時

(1) 水壓管に於ける壓力に就て

京城高工教授 山本 茂君
會 員

(2) 防空橋梁と複斜材構橋に就て

鐵道局技師 小田彌之亮君
會 員

(3) 高強度コンクリートに就て

東京帝大教授 吉田德次郎君
副 會 長

朝鮮支部發會式記念撮影



(E) 映畫會 自午後 4 時至午後 5 時 30 分
朝鮮總督府遞信局及鴨綠江水電株式會社の提供になる映畫であつて、共に有益なるものであつた。

- (1) ボールダーダム
- (2) 長津江水力發電工事

(F) 晚餐會 午後 6 時より朝鮮ホテルに於て開かれ、出席者 80 名、和氣満ちた晚餐會であつた。

(G) 見學會 5 月 26 日

見學會は二班を組織し、第一班 仁川、第二班 漢江水電清平堰堤工事とし、折柄快晴に恵まれ、本發會式諸行事の有終の美を發揮する事が出來た。本見學に當

り仁川府、京城電氣株式會社、漢江水力電氣株式會社、京春鐵道株式會社の多大の御好意を感謝する次第である。

第一班 午前 9 時半逕信事業會館前集合、バス 2 臺に分乘し、國道京城仁川線を一路仁川へと疾走し、仁川築港工事、月尾島、北仁川及富平工業地造成工事等を視察した。

第二班 午前 10 時京春鐵道城東驛前集合、10 時 15 分特發ガソリンカーにて、線漸く濃き郊外の風景を賞しつつ、清平堰堤工事場着、梶山漢江水電清平建設事務所長の案内にて、堰堤工事を限なく視察し、得る處多大であつた。

日本工學會記事

日本工學會評議員會 (昭 15. 7. 22.)

一般事務の報告あり、次で下記事項を決議せり。

- 1. 工學工業年報の發行契約中改訂に關する件
- 2. 全日本科學技術團體聯合會加盟に關する件

その他記事

土木學會誌第 26 卷第 7 號を發行成規の手續を了し、全會員に配布せり。

入會及轉格會員

(敬稱を略す)

特別員 (入會)

漢江水力電氣株式會社	林 茂 樹,	本 間 孝 義,	金 谷 要 作	2 級
朝鮮京南鐵道株式會社	藤 川 利 三 郎,	澤 崎 修,	寺 田 金 司	3 級
株式會社間組朝鮮支店	一 宮 近 藏,	吉 岡 昇		3 級

會員 (入會)

天 野 一 郎	親 谷 貞 巳	木 村 良 作	菊 池 忠 雄	松 尾 次 六	溝 上 靜 志
毛 利 三 郎	森 本 得 一				

准 員 (入會)

相 田 房 吉	淺 野 仁 信	英 夫	芦 澤 英 夫	敦 谷 賢 二	猪 崎 秀 五 郎	飯 田 純 輔
石 田 武 雄	浦 井 辰 吉	大 庭 邦 彦	大 庭 邦 彦	大 場 辰 一	門 松 政 男	木 村 宏
城 戸 政 記	岸 野 德 次	姜 興 元	姜 興 元	小 西 四 郎 治	佐 々 木 一 士	坂 田 醇
榊 明 也	澤 田 信 雄	共 倉 二 郎 吉	共 倉 二 郎 吉	朱 相 峰	杉 崎 吉 雄	瀨 尾 直 正
園 田 實 行	田 中 覺 大 郎	高 木 英 規	高 木 英 規	高 橋 松 藏	桶 良 大 郎	中 戸 川 泰 助
西 村 鎮 夫	榆 井 忠 雄	任 景 得	任 景 得	羽 田 二 郎	濱 野 義 夫	深 町 清 春
藤 本 一 德	古 屋 唯 芳	前 場 卓 三	前 場 卓 三	宮 村 一 清	安 田 光 二	山 子 榮 治 郎
山 崎 貞 雄	山 司 三 郎	山 田 英 治	山 田 英 治	山 田 善 雄	山 本 弘 之	遊 佐 正 美
李 基 高	李 衡 淑	李 弼 信	李 弼 信	若 松 文 保	渡 邊 義 雄	鶴 賢 一 郎
佐 々 木 逸 郎						

學 生 員 (入 會)

安孫子幸雄	網本克己	荒川傳	井上幸	井口昌平	市尾村一	雄
猪股俊司	今村田野	內田芳郎	小崎興	小野田耕	尾藤生	郎
越智芳仲	河野木垣	岡田以基	岡本村	野木英	加佐瀧	男
春日屋義輝	鈴西問	金鈴木口	古高濱	木克朔	平宮	一
末岡克己	福山	野松原健太郎	高濱松	畑藤間	瀧平	志
中福岡孝正		吉澤利男	吉田	田	宮	俊
八重柏						瀧
						正
						茂
						佐

會 員 (轉 格)

照塚延次郎	前田藤介	伊藤清
-------	------	-----

准 員 (轉 格)

相澤彰二	荒井敏	伊藤密則	出澤敏男	今井義郎	岡本正
川崎良三	木口正雄	清澤貞雄	工藤純太郎	井藤忠夫	權五
佐川孝一	塩川令一	孫孫偉東	田口承太郎	竹內益	張和
中根一	根本敏	羽尻裕	早坂勝久	野	大
季 尙 志	若 松 勤				

土 木 學 會 々 員 數

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
3 396	5 062	1 306	100	26	9 890

會 員 大島省三郎君, 川上英夫君, 篠田義直君, 濱田重民君, 牧野潤二君の訃音に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

會 告

會員名簿調製に就て御願ひ

昭和 16 年度本會々員名簿を作成するに當りまして、正確を期するため會員登録名簿と一應照合致したいと思ひますから、別紙葉書に所定の事項を漏れなく御記入の上、來る 10 月 5 日迄に本會に到達する様御回報を願ひます。

從來住所職業その他が變更せられても御通知がないため舊來のまゝ名簿を作成し、實際と相違することが往々ありますのは誠に遺憾に存じます。何卒従前の通り何等變更せられない場合でも、必ず御回報下さる様特に御願ひ致します。

土 木 學 會

學位

職名

會 告

眞野博士長壽祝賀會事務所より、眞野博士長壽祝賀會に御希望の方は御参加下さる様申入がありました。

土 木 學 會

眞野博士長壽祝賀會を下記の趣意で開催いたします
奮つて御参加をお願いいたします

趣 意

肅啓 益々御清祥之段奉慶賀候

扱て御承知の如く工學博士眞野文二氏は八十の高齡を迎へさせられ彌々嬰鑠樞密顧問官として邦家の爲夙夜盡瘁せられ曩に畏くも宮中杖御差許しの恩命を拜せられたるは御一門の御名譽として我等の慶祝に堪へざる所に御座候 就ては同志相謀り眞野博士長壽祝賀會を開催し記念品を贈呈して御榮譽を祝賀しその御功績を讃へ更に一層の御健康を祈り度存候

何卒右趣意御諒承の上下記要領に依り本事業に御協賛被成下候様切に御願ひ申上候
右得貴意度如斯に御座候

敬 具

發 起 人

荒川文六	加茂正雄	河原田稼吉	俵國一
朝永正三	橋本圭三郎	平賀讓	本多光太郎
牧田環	松方幸二郎		

要 領

- 贈呈品目
(イ) 眞野文二博士肖像畫 1面 (ロ) 記念品(發起人に御一任被下度)
- 御承知の如く博士は書畫、詩歌等に御趣味を持たせられ候に付、色紙、詩箋又は短冊等を以て成るべく多數祝意を寄せられ候様希望致し候(御送付先は下記事務所に願上候)
- 眞野博士長壽祝賀式 昭和15年11月中旬(時局柄宴會は取止め式後茶話會を催し度右茶話會に御出席の方は當日別に會費を申受候)
- 御豫出額は大體金5圓位を標準と致し度候得共増減は御任意に願上候 御賛同の向は昭和15年9月末日迄に下記宛御送金願上候

東京市京橋區銀座六ノ四(交詢ビル)

財團法人國民工業學院内

眞野博士長壽祝賀會事務所

振替東京80088番

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXVI, NO. 9, SEPTEMBER 1940.

CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society	51
Papers	
Discharge Coefficients of Low Overflow Weirs. (Part 2) <i>By Hitosi Honma, C. E., Member.</i>	849
Rapid and Rigorous Calculation for Adjustment of Fundamental Triangulation Nets by "Mechanical Sketch Method." <i>By Cyūzō Itakura, C. E., Member.</i>	893
Solution of the Lohse-Arch by Matrix. <i>By Atusi Hirai, C. E., Assoc. Member.</i>	890
Abstracts of Selected Articles	903
Patent News	915
New Publications	917

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十五年九月一日發行
土木學會誌 第九十六卷